

「シビックメディア」と市民によるジャーナリズム

吉村 卓也

札幌の情報を編集し、発信し、シビックジャーナリズムを実現するため、NPO法人「シビックメディア」が生まれた。現在、札幌市が提供するウェブサイト、「ウェブシティさっぽろ」、およびインターネット市民放送局「そら色ステーション」を主な舞台とし、市民が取材し、発信をする試みが続けられている。市民発のコンテンツは、どのように作られているのか、また、それらはコミュニティーに受け入れられていくのだろうか。シビックメディアの実践活動を紹介しながら、新しいジャーナリズム活動という観点から、市民による情報発信の現状と今後を考えたい。

今日は私が関わって札幌で実践している「シビックメディア」という組織の話を中心に、市民のメディア利用ということについてお話したいと思います。

シビックメディアは、市民が自らメディアを作ることによって、地域に対する認識を深め、コミュニティーを再生しようという試みと言えます。パブリックジャーナリズムかと言われることもあります。ちょっと違う。

もともとパブリックジャーナリズムというのは、アメリカで始まりました。ブッシュ対デュカキスの大統領選挙のころ、あまりにもネガティブキャンペーンがひどくて、メディアもそれに引きずられ、競馬の予想みたいな選挙報道になっていった。それに対する反動というか、メディアは本当に自分たちの属しているコミュニティーの伝えてもらいたいことを伝えていないのではないかという反省が起きてきて、そこからパブリックジャーナリズムというのが起きてくる。ジャーナリズムというのはこれまで第三者的というのでしょかね、客観報道というのか、自分たちは当事者にならないということの一つの是としてき

た訳ですけど、パブリックジャーナリズムというのはそうではなくて、そこから一步踏み込んでジャーナリズムのメディアの運営主体自体が地域運営の主体になっていく、それをまあ、先導していくと言えは言い過ぎですが、リーダーシップを取って行ったり、ということまで踏み込むものなんです。そこがいままでのジャーナリズムとはずいぶん違うものじゃないかと。それはそれで良いんですが、アメリカでそれをやっていたのは地域の既存メディアです。新聞が中心なんです、それがリーダーシップをとってやっていく。

私たちがいまここでやっているのはそうはなっていません。ということで、彼らの定義するパブリックジャーナリズムとはちょっと違う形になっているんじゃないかと思いません。一番違うのは、既存メディアが一切入っていないということなんですね。それが良いのか悪いのかわかりません。私たちも今のところは既存メディアに対するアプローチを特にしていません。していない理由はいろいろあって、最初から諦めている、ということが無い訳ではないですが、まだ、機が熟していないんじゃないかという気がしています。

日本の他の地域で、実際に市民が作ったものをテレビにフィードバックしたり、番組を提供したり、ということをやっているところもありますが、札幌ではまだそのようなことはありません。

私たちの場合、WEB というものが主な発表媒体になっています。一番簡単にできる媒体ですね、World Wide Web というものやインターネットがなければやっぱりこれは出来なかったものだろうと思います。発表の場所はウェブがメインになっています。いま申し上げたように、アメリカのパブリックジャーナリズムとの違いは地域のメディアが既存のメディアとかかわりがあるかどうかということですね。

それから、津田先生が仰るパブリックアクセスということがあるんですけど、これはパブリックアクセスなのかということになると、ちょっと私もよくわからないので、あとでお話を伺いたいと思います。これは、パブリックアクセスとも言えるし、そうじゃないとも言える。一般的に言われるのは、パブリックアクセスというのはメディアが、市民のメディアへのアクセス権を保証する、という意味で使われていることが多いと思います。これもアメリカとかヨーロッパの方で盛んにやられていることじゃないかと思いますが、アメリカですと法律でケーブルテレビでどのくらいの時間を市民に開放しなければいけないということで、市民は何をやってもいいよ、ということですね。完全にオープンな枠として取られている。そうすると、そこで出されるものは玉石混交と言いますか、ほんとにたまに人種差別的な発言が出ちゃったりするような、そういったアクセスを保障しているのがパブリックアクセスと言われている現状があります。そういった意味で言うと、私たちは既存のメディアに出口を持っていませんし、ここでパブリックアクセスを実現している訳でもないんですね。

それは私たちの組織のなかでも議論になっていますが、パブリックアクセスを保障したいと考えます、ここに書きちゃったんですけど、これはいつかやりたいと思っています。まだ、ちょっとそこまで機が熟しておりません。これは、たとえば、市民情報センターという所、私たちはその一角を借りていろいろ作ってありますが、その下にスタジオみたいなカメラがあるようなところできていまして、じゃあそこに市民に来ていただいて1分間なんでも話してください、としてですね、それをどんどんWEBに載せていこう、そういうこともどんどんやっていったらいいのではないか、という話をしているのですが、まだ、そこまで実現しておりません。そういった場合に、流される内容というのをどのようにコントロールしていくか、あるいは、コントロールしないのか、そのようなことを考えなくちゃいけないだろう、という風に思っております。私がむかし、中学生ぐらいのことですね、ご存知の方もいらっしゃると思いますが「銀座ナウ」という番組がありました。せんだみつおが出てたんですけど、そこでですね、あるコーナーがあったんです。その辺のテレビに出たい高校生とか中学生とか、なんか伝えたい、イベントやるよ、とかありまして、スタジオにセットが作ってあって、100円入れると1分間窓が開くんです。その1分間、パッと開いたところで、その人たちが出てきてですね、ワーッと何かを喋る。私たちのバンドは何月何日どこでこんなことをやる、みんな来てね、とか、最後に「誰々見てるかー」とか言って1分間経つとパシャッと閉じる。なんか私パブリックアクセスという言葉を見るといつもそのシーンを思いだす。そういったものを実現させていくには、どんな方法があるのかいろいろ考えております。

シビックメディアの主な活動としては、短期の活動計画に書いてある札幌市のHPの

コーディネーション、取材、編集、管理、ということになります。また、メディア塾というのをいまやっております。ここに書いてあるように市民ジャーナリストを育てるための講座の運営、ということになっております。情報発信基礎コース、情報発信体験実践コース、と取材・編集入門講座、それから写真を撮る、動画を撮る、編集するという実践コース、これを運営、企画しました。取材・編集入門講座というのは私が講師でやったんですけど、「書く」というのは元新聞記者の方を頼んで講師をやってもらって、「写真を撮る」というのを現役の写真ジャーナリストに来ていただきました。「語る」はコミュニティFMのパーソナリティに来てもらいました。それから動画を撮るというのは地元のテレビ局のテレビカメラマンに来ていただいて講師を、というように行いました。これ実はIT市民塾という札幌の講座の一部です。その中でこういったワークショップをやっていた。キッチンと広報誌などで説明をしている訳ですけど、IT市民塾と言いながら私たちはITを学ぶのはメインではない、ということも明言して、これは情報発信するための講座で、道具の使い方だけを教えるのではありません、と言いながら講座をやっています。それでも良いというか、そういうことこそ学びたいという方が結構いらっしゃいました。ほとんどの講座が満員でキャンセル待ちをしていただくような状況でした。その中からいまこちらのシビックメディアの活動のほうで、私たちの札幌のWEBサイトを作っていたかどうかのような方々、手伝って頂けるような方々を見つけていきたい。実際にここに参加された方々でこういうのをやってみたい、と、いま二人ほどこの講座に参加された主婦の方なんですけれども、札幌の「食」、食べ物ですね。これについてコンテンツを作ってみたいと、という方が一人。あとは、働くお母さんたちを何とか支援したい、どういう状況なのかを

取材してみたい、というような方もいらっしゃるってメンバーに加わっていただいています。

実際の中身、いまちょっとご覧にいたしませんけれども、これはまあトップページですが、なるべく毎日更新しようやっています。なんせスタッフがなかなか足りません。専従者が4人ですが、いつも取材していただけるわけではありません。先日掲載されたこの記事は、創成川アンダーパスというのを札幌に住んでいらっしゃる方だとご存知だともいいますが、これをいま貫通させて全部つなごうという計画があるんですね。それに関する市民懇談会というのが今やられてまして、あんまり知ってる方いらっしゃらないんですが、これを取材してます。担当を決めて、懇談会をウォッチする。これは別にそこに反対するとか、私たち別に市民活動家でもなんでもないので、それを止めさせるということが目的ではなくって、そういう計画があるんだったらどうやってアンダーパスを作った後ですね、市民が使いやすい場所にしていくというか、たとえば、それが観光の目玉になるようなものにしていくか。上に公園を作ろうという計画があるんですが、そこを何車線にするのかということ、あるいは、あそこの柳の木を全部切らなきゃいけないというようなこともありまして、ほんとにそれでいいんですか、ということを考えていく。どうせやるならば、今あそこの川によって分断されている東と西区域をうまく繋げることができないか、とか、そういったものを一緒に考えていくというのでしょうか。

私たちも市民ですし、市役所の人も市民ですから。市と市民の対立構造を作り出すためにやっているわけではなくって、あくまでも自治に参加するといいましょうか、プロフェッショナルな自治の人たちとアマチュアの市民の人たちがいる、というのではなくってですね、この地域で共にやっていくという

ことを常に考えてやりたいと思っています。商業メディアというのは対立構造があると記事が作りやすいですね、いろんなことがやりやすいですがそれが目的ではありません。メディアを作るというのは、それは手段の一つでして、何が目的で、何を完成させるための手段かと言うと、より良い札幌を作っていく、というための手段の一つでしかありません。これが目的だということではなく、これがツールのひとつと言いましょうか、そういう気持ちでやっております。

それで選挙の話ですね。札幌では13日に市長・市議会議員、北海道知事と道議会議員の選挙があります。1ヵ月前ですのでいろいろな情報を載せました。行政が発表している不在者投票、そのやり方のページとかあるんですけど、それが非常に探しにくいところにあります。そういうところに、うまく導いてあげるとするのがこのサイトの特徴の一つです。すべて自分たちで取材するのではなくて、行政がきちんと出しているものもあるんです実は。出しているんですけど、彼らメディアのプロでもなんでもないので、非常に宣伝が下手です。WEBページの作り方もそうですし、書き方もそうですし、ほんとにこんな一所懸命にやっているのに、もっとちゃんと出さないよ、という意味もありまして。いろいろな情報を探し出して、うまく道案内をしてあげると言うのでしょうか、そういうところがサイトの一つ大事なところですよ。それがトップページの左側にかたまっております。除雪のこと、とか、3月4月に向けて転校がいろいろ出てきますよね。転校の手続きについて、小学校、中学校、高校、特殊、とあります。いま幼稚園編、保育園編を作っているところですが、これがここ2、3日中にできたものです。行政は確かに出しているんですね。探すところですよ。探すところなんですけど、札幌市の前の行政のサイトですと、じゃあもうそろそろ4月だからそう

いうのを前面に出して行きましょう、というような編集をやりきらない、それを市民の目からお手伝いするというのが私たちの役目。

それからですね、「札幌で働く」というのがありまして。行政サイトの検索窓があるんですけど、そこに対するリクエストに対する統計を私たち見せていただきましてね、非常に多いのは「職員募集」という検索なんです。それから、「確定申告」とか、「税金の還付」とか、こういうものが非常に上位を占める。ですから、そういったものをわかりやすいところに出していかなければならない。札幌で仕事を得るための情報ですね。あるいは、公営住宅。公営住宅というのは市営住宅とか道営住宅、あるいは雇用促進事業団の住宅など。これは縦割りを崩してここでは札幌市にある公営住宅ということで、本来は市のサイトだから市営住宅以外は知らない訳ですが、そういうことではなくて市営住宅、道営住宅、あるいはそのほかの住宅、それらをコンテンツとしてまとめて作りました。

そういう実用的なものもあるんですが、このトップページにいま載っているのはキタラですね。今日、これから取材に夕方行くんですけど、このあいだ歴代のキタラのオルガニストたちが札幌に帰ってきて、オルガン・フェスティバルというのをやったんですね。私たちのNPOの一つの方針として、札幌の資産として、応援するべきところは応援しようというのがあります。アートの面ではキタラ、芸術の森、札幌交響楽団とかですね、それを積極的にサポートしていきたい、という風に考えています。これは動画もあります。これは実際にスタッフがインタビューをしてリハーサル風景を撮ったものです。

(ストリーミングコンテンツの視聴)

これは単に動画を繋いだだけなんですけど、こういったリハーサル風景をキタラにお願いして撮らせていただいた。ここでまあキ

タラの今月のコンサートにもリンクを張っているという状況ですね。今日は14日ですので、交響楽団の定期演奏会の前にロビーコンサートをやるんですけども、その取材を夕方からやる。よろしければ是非一緒に来てください。今日は奇しくも札幌交響楽団、いま財政的にピンチですが、今日は新しいロゴマークの発表があるのでそれ取材するという形です。市内在住のデザイナーたちが新しいロゴをボランティアで考えてくれた、という選考会が今日あるんです。

「バックナンバー」を見てもらえば分かりますが、これまでに書いた記事がありまして、雪まつりの時には雪まつりに来てもらえるようにいろんなコンテンツを出しています。たとえば、これなんかは滑らないようにですね、私たちのメンバーが履いている靴の底の写真を撮りまして、実は札幌の人たちはこういう靴を履いているんですよ、みたいな。ツルツルの底ではダメですよ、といった記事です。

雪まつりというのは、札幌市の人たちは飽きちゃって、もういいやという感じの人が多と思うんですけど、私もこれやって非常に良く分かったんですけど、雪まつりというのは参加しなくちゃだめだな、と思いました。メンバーなんかは雪まつりの取材をしていくうちに、やっぱり自分でつくろう、というようなことにだんだん傾いてきました。実際に雪像の製作現場に行ったり、市民雪像の足場の上に上ったりしてですね、来年はなんかほんとに作ってみたい、という気になっています。

(ストーリーミングコンテンツの視聴)

京都からいらして会社を1ヵ月休んで市民雪像作りに参加しているという方がいらっちゃって、その方にインタビューしたコンテンツも作りました。

どんなものを記事にするか、というのもず

いぶん考えます。正月明けの仕事初めの日、かなりの雪が降りました。雪かきなんか大変だったんですが、このくらいの雪では、札幌の街は当然、大丈夫でした。なにも起こらなかったのです。特に混乱はありませんでした。まあ、札幌の人にとっては当たり前でしょうが、あんな大雪なのにお父さん、お母さんは勤めに行くし、バスもたいして遅れないし、JRもちゃんと走っているぞ、ということにやっぱり皆さんもうちょっと感動しませんかという、という意味を込めて「強いぞ札幌」という記事にしたわけです。混乱がなければ、普通じゃないことがないと、マスコミは記事にしないでしょう。けれど、普通の人の生活は、普通のことの積み重ねです。普通のことの中に価値を見つけていくのも大事ではないかと思います。

こういうことをやった結果、札幌市のWEBサイトに対するアクセスが高まっております。月間のトップページビューが約10万ビューです。これは、サイト全体ではなくて、表紙だけです。自治体のサイトとしてはかなり高い数字だと思います。

それからあと、「旬」というシリーズがあります。いま札幌で何が美味しいか、ということですね。実はここを見ると良く分かりまして、これ札幌中央卸売市場から毎週FAXをもらって、入荷状況を聞いています。この黒字のものが安いものですね。ホッケ、ホッキ貝、エビ、ヤリイカ、この辺が実は美味しいです。これは道産のものに限ってますんで、まあ、野菜はハウスで作ったり、越冬しているものに限られていますけど、これから雪が解けて野菜がどんどん増えてくる。というのを見ると、北海道というのは非常に豊かな地域なんだな、ということが実感できるのではないかと思います。ここにはご丁寧に素材の紹介とかありましてですね、実はキンキという魚が焼かれている動画なんかもあります。これはたまたまスタッフが居酒屋に行って、

キンキを焼いているのが美味そうだと撮ってきたものをコンテンツにしてしまいました。

これなんかも札幌市の市役所の人結構喜んでですね、自治体のサイトで魚焼いているのはここぐらいなものだ、と言っておりました。この「食」のコンテンツは非常にこだわりのあるスタッフがいます、これからどんどん充実していくと思います。それと同時に、動画を中心にした「そら色ステーション」というサイトも作っております。これは動画なんですけども、ここです、これはたとえば子供たちに取材させるプロジェクトで「ちびっこメディア」というのをやっております、この間は札幌の市電「ささら電車」を子供たちが取材し、スタッフがそれをカメラに収めました。

(ストリーミングコンテンツの視聴)

これは撮っているのは大人なんですけど、子供が撮るときもあります。一番最初に出来たのは地下鉄編です。子供って乗り物が好きですね。

(ストリーミングコンテンツの視聴、地下鉄職員へのインタビュー)

これはいまも増えているんですけど、1ヶ月に一本ぐらい、編集はパソコンでやっていますが、メンバーが少なく時間がかかって、なかなかどんどんできるということにはなりません。

わたしの喋る時間がそろそろ一段落です、ここでいったん終わりにさせていただいて、後は質疑応答というか、なんでも自由にお話しただければと思います。どうもありがとうございました。